

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

公表:令和4年 3月18日

事業所名 ふらっと

| | | チェック項目 | はい | どちらとも いえない | いいえ | 課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標 |
|------------------|------------------------------------|--|----|---------------|----------------------------|---|
| 環境・ 体制整備 | 1 | 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | 5 | | | 感染防止対策をとりつつスペースを確保するよう努めています。 |
| | 2 | 職員の配置数は適切である | 5 | | | |
| | 3 | 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | 5 | | | 居室が2階でエレベーターもなく、階段がある時点でバリアフリーとは言い難いです。手すりや滑り止めは設置できています。 |
| 業務改善 | 4 | 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | 5 | | | |
| | 5 | 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | 5 | | | |
| | 6 | この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | 5 | | | 法人HP→「新着情報」に掲載しています。 |
| | 7 | 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | 3 | | 2 | 法人内各管理者に公表しています。令和4年度4月より虐待防止委員会、身体拘束適正化検討委員会が設置されます。委員会での分析・検証を報告できるように整備していきます。 |
| | 8 | 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | 5 | | | 強度行動障がい、虐待防止、権利擁護等の研修を受講しています。実践報告会(Web版)にも参加をし、他事業所の療育方法、環境設定を学んでいます。 |
| 適切な 支援の 提供 | 9 | アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | 5 | | | コロナ禍で対面の面談が難しい中で、電話での面談形式に変更しています。保護者の表情や発言からニーズの高さを割り出すこともあるため、オンライン形式の面談も取り入れようと考えています。 |
| | 10 | 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | 4 | | 1 | スケジュール表(ホワイトボード、タブレットスケジュール等)、タイマー、絵カード、座席表等のツールから状況確認を行っています。 |
| | 11 | 活動プログラムの立案をチームで行っている | 5 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・季節に応じたモノづくり、個人・小集団で可能な取り組みを常に意識してプログラムの立案、実施をしています。 ・長期休暇、休日開所は平日とは多少異なるプログラムを企画・運営しています。特にコロナ禍においては外出活動ができない状況下ですが、非接触に限りなく近いスポーツを取り入れながら外部活動を試行していきます。 ・職員間での打合せは必ず行っています。支援後の子どもたちはどのような感じ方していただろうか、事前の打合せとの差異はどの程度なのか、今日の様子で自宅ではどう過ごすだろうか、次回はこうしてみようといった検証と今後の予定を立てています。 |
| | 12 | 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | 5 | | | |
| | 13 | 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | 5 | | | |
| | 14 | 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | 5 | | | |
| | 15 | 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | 5 | | | |
| | 16 | 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | 5 | | | |
| | 17 | 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | 5 | | | |
| | 18 | 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | 5 | | | |
| 19 | ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている | 5 | | | ガイドラインを参照の元、基本活動の見直しを図ります。 | |

| | | | | | | |
|----------------------|---|---|---|---|---|---|
| 関係機関 や保護者 との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | 5 | | | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | 5 | | | 特に新型コロナウイルス関連は連絡・報告を行いました。学校行事・下校時刻は毎月学校(高槻支援学校)から予定をメールで送っていただいています。 |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | 4 | 1 | | 必要な場合は保護者とともに主治医と連絡体制がとれるよう動いていきます。 |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | 5 | | | 児童発達支援事業所または相談支援事業所から情報を共有することが多くです。 |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | 5 | | | 相談支援事業所、成人サービス事業所から依頼された場合に提供するようにしています。学校卒業後に契約最終様式を保護者様にお渡ししています。様式内に、サービス事業所への情報提供の可否の確認をとっています。 |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | 4 | | 1 | |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | | 1 | 4 | 機会を持つことも大切かと思っていますが、必要性を再度考えていきます。 |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | 1 | 1 | 3 | 高槻事業所連絡会児童部門が2019年9月に立ち上がりました。2か月に1回のペースでオンライン会議を実施しています。自立支援協議会の委員に当法人の事業統括責任者が構成されています。協議会での議題等の共有をはかっています。 |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | 5 | | | |
| 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | 3 | 1 | 1 | 常時自宅で落ち着いて過ごしているか、放デイ後の生活リズムが保たれているかを意識しています。 | |
| 保護者への 説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | 5 | | | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | 5 | | | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | 3 | 1 | 1 | 2019年6月に懇談会を実施しましたが、新型コロナの終息が見込まれるタイミングで再開できればと考えています。 |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | 5 | | | |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | 5 | | | 令和3年2月より月1回ペースで「ふらっと通信」を発行します。 |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | 5 | | | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | 5 | | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | 5 | | | コロナ過で各行事が中止となりました。夏祭り等のイベントが再開しましたら改めてご案内いたします。 |

| | | | | | | |
|---------|----|--|---|--|---|---|
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | 5 | | | 法人作成の「非常災害対策計画書」を元にふらっと版として編集を行います。 |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | 5 | | | 年2回を目途に避難訓練を実施していますが、今後は近隣消防署と演習ができる機会を創りたいと考えています。 |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | 5 | | | 毎年虐待防止・権利擁護研修は実施しています。 |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | 4 | | 1 | 対象となるお子様はいらっしゃいません。必要になるのであれば保護者様、行政機関とも相談します。 |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | 5 | | | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | 5 | | | |

実施事業所 社会福祉法人つながり 放課後等デイサービス ふらっと
配布数 5部 / **回収数** 5部
集計担当 児童発達支援管理責任者 平谷 知英
配布期間 令和4年2月22日～2月25日

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援 管責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障害特性や課題、平日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている